

景況 レポート

8月分

情報連絡員 80名

自動車販売、家電販売に好況感

～経済対策の効果か～

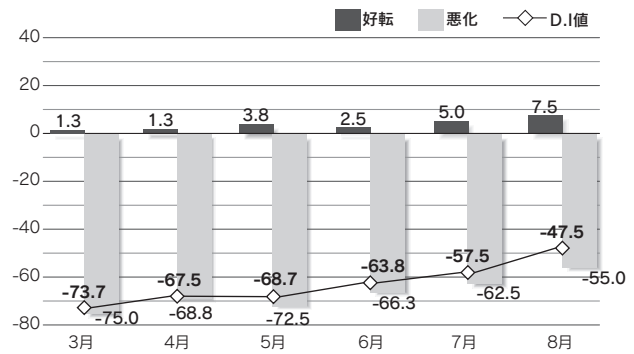
景気概況

8月分の県内景況は、前年同月と比較して、景況が「好転」したとする向きが7.5%（前月調査5.0%）、「悪化」が55.0%（同62.5%）で、業界全体のDI値は-47.5となり、前月調査と比較し10.0ポイント上回った。

内訳として、製造業全体のDI値は-65.6で前月調査（-65.7）に比べ0.1ポイント上回った。また、非製造業全体としてのDI値は-35.4で前月調査（-52.0）に比べ16.6ポイント上回った。

（回答数：80名 回答率：100%）

業界全体好転悪化割合〔前年比／同月比〕



※DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

	業界の景況	売上高	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員	【天気図の見方】 前年同月比のDI値をもとに作成しています。
製造業							【凡例】 晴れ 10以上 30未満 快晴 30以上 くもり △10以上 10未満 雨 △30超 △10未満 雷雨 △30以下
非製造業							

業界の声

味噌醤油製造	7月分の出荷量は、前年同月比で味噌が87.4%、醤油は110.2%で推移した。
清酒製造	7月分の清酒出荷量は1,512kℓで、前年同月比96.6%で推移した。タイプ別では、吟醸酒が前年同月比で100.9%、純米酒が97.5%、本醸造酒が92.8%、レギュラー酒が96.8%という状況になっている。
繊維・同製品	市場では7月・8月のセール商戦が不調に終わり、在庫負担が解消されていない。その結果、秋・冬物の発注が慎重で工場キャパシティが埋まらない。特に、百貨店での売上減少が深刻で、アパレルからのコストダウン圧力が強まっている。
木材・木製品	住宅着工数は前年比70%弱で推移しており、荷動き、価格とも低迷している。原木価格は一部の径級で強含んでいる。集成材は安値が続いているため生産調整を行っている。
窯業・土石	4月～8月の出荷数量は前年比77%であるが、8月に入り出荷の動きが出てきた。9月以降、公共投資の増額を盛り込んだ国の経済対策の効果が現れてくることを期待したい。
自動車販売	8月の新車販売台数は、登録自動車が1,646台（前年同月比109.8%）、軽自動車が1,324台（同102.8%）で、合計2,970台（同106.6%）であった。7月に引き続き、登録自動車・軽自動車ともに前年同月を上回った。
電機販売	8月は予想に反して夏物商戦はやや低調に終わった感があるものの、前月に引き続き業況は好転（前年同月比）となった。
石油製品	ガソリン1ℓ当たり123円で前月比1円の引き上げ、軽油は1ℓ当たり101円で前月比1円の引き上げ、灯油（配達込み）は18ℓ宅配で1,201円で前月比14円の引き上げとなった。原油価格の上昇に伴い元売の仕切価格も値上がりしているが、末端価格の値上げは小幅に止まっている。
商店街	集客力不足と一般消費の冷え込みで商売は厳しい状況にある。ただ、家電はテレビの需要に支えられ前年同月比20%程度の増加となった。〔秋田市〕日照時間が短いため米の生育にも影響があると思われることから、不作になると商店街への打撃も大きなものになると懸念される。〔能代市〕
建築設計	住宅着工数や公共工事の減少で建築業界の低迷が続いているが、県・各市町村の公共の建物の耐震診断業務が加速的に増え、得意な事業所は繁忙のようである。公共事業の発注があった地域では上向き傾向が見られる。
一般建築	国・県の前倒し発注により前年同月比で受注量が増加した。